平成８年４月発行

国際交流

ふれあいのひろば

第11号

11／5　協議会設立10周年記念祝賀会・表彰式（於：アークホテル岡山）

～設立10周年を迎えて～

会長　小坂淳夫

会員の皆様には、平素から本協議会の活動に対してご支援とご協力を賜わり、心から厚くお礼を申し上げます。

本協議会は、昭和32年３月発足いたしました岡山サンノゼ盟友都市協議会を母体とし、その後の岡山国際盟友都市協議会への改称、さらに、岡山市・洛陽市友好都市推進協議会の設立を経て昭和60年に設立されました。以来、岡山市の姉妹都市交流、地域国際化を支え、そして、見守り続けて10年が経過いたしました。

本協議会の前身であります岡山サンノゼ盟友都市協議会が設立された昭和32年当時は、まだ我が国が開発途上国の色彩を色濃く残していた時代でありました。そのような中、全国の地方自治体で姉妹都市交流事業がスタートいたしました。とりわけ岡山市と米国サンノゼ市の姉妹都市締結は、全国で３番目の姉妹都市縁組ということでもあり、当時は、国際交流の先鞭をつけたものとして大きな注目を浴びました。その後、我が国経済の驚異的な成長とともに、国際交流活動は行政主導から市民レベルの活動へと大きく変化し、さらに、現在では地域の国際化、国際ＮＧＯ団体等の国際貢献活動へとその姿を大きく変貌させていることに、驚くとともに感慨深いものを感じるのは私だけではないと思います。

昨年11月５日には、岡山市国際交流協議会設立10周年記念講演として、ピーター・フランクル氏をお迎えし「世界の旅」と題して講演をしていただきました。また、引き続き、アークホテル岡山において、設立10周年記念祝賀会を盛大に催し、その席上、初代協議会会長で協議会の発展に多大なご貢献をいただきました梶谷忠二氏並びにサンノゼ交換学生制度の提唱者で、両市の姉妹都市交流の礎となられているサンノゼ市のウェード・ホーバー氏にお越しいただき、お二人へ国際交流特別功労賞をお贈り致しました。

現在、本協議会の事業は、各種姉妹都市交流事業をはじめ、友好交流サロン運営事業、アジア奨学生受入事業、子供海外派遣事業、国際交流推進事業助成金交付事業等、様々な事業を展開し、地域の国際化を見据えながら地球規模の活動に目を向けつつあります。

この度の設立10周年を契機に、今後とも皆様のお力をお借りしながら、さらに協議会の活性化にも取り組み、21世紀に向けた、国際化事業の積極的な推進を図って参りたいと思いますので、なお一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

岡山市国際交流協議会

昭和60年４月、岡山市国際交流協議会が、岡山市と姉妹・友好都市縁組を締結している都市との交流をはじめとする国際交流事業を推進し、国際間の相互理解と友好親善を深めるために設立され、この度10周年を迎えました。

これを記念して昨年11月５日、設立10周年記念講演会、国際交流特別功労賞表彰並びに記念祝賀会が開催されました。

岡山市国際交流協議会10周年を迎えて

理　事　**国　富　比左子**

アメリカ・サンノゼ市との姉妹都市縁組締結に際して、現在の「岡山市国際交流協議会」の前身である「岡山サンノゼ盟友都市協議会」が発足してから今年で39年。その後、コスタリカ・サンホセ市とも姉妹都市縁組を結び「岡山国際盟友都市協議会」に名称変更してから27年。続いてブルガリア・プロブディフ市、中国・洛陽市とも姉妹・友好都市の契りを結び、「岡山市国際交流協議会」として再出発してから10年の歳月が流れました。

名称もさることながら活動の内容も時代の変遷、社会の要求に合わせて変化してきました。最初の頃は姉妹都市との人物交流が主な活動で、昭和34年から30年余り続いたサンノゼとの交換学生事業はその代表的なものと言えましょう。現在は、各姉妹・友好都市との間で専門家相互派遣、研修を続けておりますが、習得した知識や技能を自国で地域社会に還元してもらえ、成果が上がっております。

最近は「人物交流」の上に「国際理解」や「国際貢献」を主眼に置いた活動が増えてきております。人物交流で培われた直接体験や情報を通じての間接体験の繰り返しの中で、私たちがお互いに相手を理解し、現状に則した役割を担い、期待に応えて行く時代になってきました。在岡外国人への物心両面の支援も軌道に乗って来ました。

岡山へ来られる外国人も飛躍的に多くなってきております。きっと何かがよくて、世界中の多くの国の中から日本を選び、日本中の多くのまちの中から岡山を選んで下さったのだと思います。何かのえにしで結ばれた遠来の人たちとの新しい出会い、学び合いに心躍る時にも、文化や価値観の相違から葛藤に心悩ます時にも「日本は来てよかった国、岡山は来てよかったまちになっているかなぁ？」「私は出会えてよかった人になっているかなぁ？」と考えながら、多くの人たちと手を携えて11年目の活動を続けていきたいと思っております。

ウェード・ホーバー氏夫妻来岡

岡山・サンノゼ交換学生制度の創始者であるウェード・ホーバー御夫妻が来岡。ホーバー氏は10周年記念祝賀会に出席のほか、岡山市有功表彰を受賞。

10周年記念テレホンカード作成

設立10周年を記念して、岡山市と姉妹・友好都市４都市を地図上に表現したテレホンカードを作成しました。

設立10周年記念事業

●●●設立10周年記念講演会（11／5）●●●

■講 師：ピーター・フランクル氏
■演 題：『世界の旅』
■会 場：西川アイプラザ5階ホール

ユニークな衣装で現れたピーター・フランクルさんは、ハンガリー出身の数学の博士号をもつ世界的数学者で、大道芸でも人気がある。『世界の旅』と題した講演のほか、得意の大道芸も披露した。

●●●設立10周年記念祝賀会（11／5）●●●

■会 場：アークホテル岡山

会場には、協議会会員を中心とした約150人が集まり、日頃面識のない会員同士の親睦を深める良い機会となった。

また、岡山・サンノゼ交換学生制度の創始者であるウェード・ホーバー氏と前会長の梶谷忠二氏へ国際交流特別功労賞が授与された。

安宅敬祐岡山市長より表彰を受ける
ホーバー氏（左）と梶谷氏（右）

国際交流の話をしながら
親睦を深める会員

ホーバー御夫妻、梶谷前会長を囲んで

安宅市長姉妹都市サンホセ並びに米国訪問

安宅敬祐市長は10月14日から25日までの間、本市の姉妹都市がある、コスタリカ共和国・サンホセ市並びに米国の各都市を訪問いたしました。サンホセ市では、サンホセ市長をはじめ政府や市関係者の方々等と幅広く意見を交換し、友好を深めました。

サンホセ市・議会による特別名誉市民賞授与式でサンホセ市、ジョニー・アラヤ・モンヘ市長と握手する安宅市長

コスタリカ共和国、文化・青少年・スポーツ省、アーノルド・ロドリゲ大臣（中央左）と会見

コスタリカ共和国、アントニオ・アルバレス・デサンチ国会議長と会見

ボストン子供博物館視察

マイアミ・ボランティア団体のタイム・ダラー視察

岡山市友好訪中団

10月３日から12日まで、宮崎正壽岡山市助役を団長とする『岡山市友好訪中団』一行６名が、友好親善と交流を深めるとともに、今後の交流についての協議を行うため、友好都市である洛陽市を訪問しました。その際、第１回目の日本語弁論大会に出席し、審査に加わりました。

また、経済事情等の視察のため、洛陽市のほか上海、蘇州、西安、北京を訪問しました。

龍門石窟にて

日本語弁論大会

洛陽韶楽鑑賞後の記念撮影

岡山国際交流センター・オープン

昨年６月24日、岡山県の国際交流センターが岡山駅西口にオープンしました。
岡山の地域国際化の核として、また世界に情報を発信するセンターとしての機能が大いに期待されています。

岡山国際交流センター

〒700 岡山市奉還町2丁目2番1号 TEL(086)256-2000 FAX(086)256-2226
〈開館時間〉午前9時～午後9時
〈休 館 日〉毎週月曜日（月曜日が休日のときはその翌日）、12月29日～1月3日の期間

パスポートセンター

TEL(086)256-1000 FAX(086)256-2615
〈業務時間〉午前9時～午後5時
〈休　　日〉土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日～1月3日の期間

第２回　子供海外派遣研修

第２回目の派遣となった今回は、昨年７月28日～８月10日の日程で姉妹都市サンノゼ市に８名（引率者２名）、友好都市洛陽市に16名（引率者２名）、７月25日～８月７日の日程で姉妹都市プロブディフ市に15名（引率者２名）を派遣しました。一般家庭にホームステイしながら、家族の一員として滞在をしました。その間現地の学校を訪問するなど各種の交流活動を行い、異文化の中で様々な生活体験をし、国際的視野を広めてきました。

岡山市立福浜中学校
教諭　井　沢　健　治
（サンノゼ引率者）

「目に入るもの全て、とにかくよく見てごらん。」これが渡米前に生徒たちに与えた私からの課題でした。今、私たちは、世界中の出来事をオンタイムで知ることができます。テレビの画面を通して、美しいニューヨークの夜景を手に取るように見ることができます。しかしながら街の素顔は、テレビの画面がもうひとつ外側に広がっているのです。その外側の世界に一歩足を踏み出した。それが今回の私たちのサンノゼ訪問でした。市内電車の案内板に英語、スペイン語は当然として、ベトナム語の表示に驚かされたのもその一例でしょう。

今回の訪問を通して、とりわけグロリア・スターンさんをはじめとするホスト・ファミリーの方々には、言葉に尽くせないほどお世話になりました。限られた日程の中で、できる限りの配慮をいただき、たくさんのことを経験できました。私たちには食べきれないほど盛られたレストランでのディナー、グラウンドにバスケットコートが10面以上もあるような広くて設備の整ったミドルスクール、小さい買い物かごではなく、「でっかい」カートしか置いていないスーパーマーケット、遊ぶ時には徹底的に遊ぶ人々、日暮れになるとどこからともなくやってきて街角にたむろするあやしい人々……！

「これもアメリカなんだ！」生徒たちの前でログセになってしまった私の言葉です。生徒たちには、日の当たる部分も、影の部分も全てのアメリカをそのまま受け止めて欲しい、そして未来の日本と自分の姿に思いを馳せて欲しい。これが彼らへの私のメッセージです。

岡山市立西大寺中学校
教諭　吉　永　美佐男
（洛陽引率者）

洛陽市は、プロタナスの美しい古い歴史をもつ街で、早朝から夜遅くまで行き交う人の多さに圧倒される。市の郊外には、龍門石窟、白馬寺、関林など名所も多い。

ホームステイ先は外語学校在学の生徒宅で、生徒２人１組で７泊８日の生活となり、その間はほとんどホストファミリー一任であった。脂濃い中国料理とその量の多さ、大変な気遣いを見せる両親、家庭で家事を率先する父親の姿、安い物価、歴史的遺産の数々…。そのカルチャーショックはさぞや大きかったと想像するが、やがて生徒たちは家族やその友人たちと王城公園・博物館・デパート・市場に出かけたり、レストラン・カラオケに行ったりし始めた。家庭では食事の準備・片付けを手伝い、ギョウザ作りを教わり、中国の歌を習うなど、覚えた中国語を使っての市民生活を存分に体験することができたようだ。

ホームステイを終えて、私が一番うれしいのは、隣国に同世代の友人ができたことで生徒たちがますます中国を好きになり、友好交流の気持ちを強くしてくれたことである。日本とは政治経済その他で大きく違う国だが、過去の日中の悲惨な歴史を教訓にハンドメイドな交流を広げていけるそんな国際人に生徒たちがなってくれるものと期待している。

～研修のおもいで～

サンノゼグループ

洛陽グループ

プロブディフグループ

岡山市立高松中学校
教諭　冨　谷　真　弓
（プロブディフ引率者）

東欧の小さな国ブルガリアと聞いても、ヨーグルトとローズオイルくらいの知識しか持たなかった私には、首都ソフィアも姉妹都市プロブディフも全くの未知の都市であった。各地の旅行記は、多数出版されているもののブルガリアについての情報はいたって少なく期待よりも不安の方が大きかったと言えよう。しかし、果物が豊富で歴史のある街と聞けば、岡山と通じるものを感じ、とにかく自分の目で確かめるしかないと覚悟を決めて旅立った。

日本では想像もつかない程のでこぼこの舗装道路を走って、ひまわり畑とどこまでも続く平原の中にその街は現れた。古い石造りの市役所で、私たちを温かく迎えてくれた人々の笑顔にホッとしたものである。習い始めて３年目の英語だけが唯一のコミュニケーション手段ともなれば、生徒もさることながら受入れ家庭の人々はどれ程勇気がいったことか…。

口数が少なく日本人同士でかたまりがちだった子供も日が経つにつれてブルガリアの子供と行動する機会がふえていくのを見てほっと胸をなでおろしたものである。お互いの想いがスムーズに伝わりにくいことは確かにあった。相手を思いやる気持ちで幾分クリアーできたようだ。

相手に伝えたい知りたいという気持ちがなければ、たとえ言葉が使えても真の交流は難しいと再認識した研修であった。

第２回プロブディフ市技術研修生来岡

姉妹都市プロブディフ市から、第２回目の研修生としてピーター・ニコロフ・ペトルーシェフさんが昨年８月11日来岡、３か月間岡山で研修を行いました。

ペトルーシェフさんの職業は、プロブディフ市警察署・格闘技首席指導教官で、滞在中は岡山県警察本部に籍を置き、県警機動隊で柔道を、また、日本伝武極玄成流・竹村玄山師範の下で合気道の実技研修などを行い、日本の伝統的な格闘技を通じ岡山市民と友好を深めました。

県警機動隊での柔道研修

合気道の実技研修

竹村玄山師範（前列左から２番目）とペトルーシェフさん（前列左から３番目）

第１回アジア奨学生帰国

安宅市長から修了証書を受け取った
ウルビズトンドさん（左）とコーさん（右）

アジア諸国との友好関係を深め、人材育成を目的とし、昨年度から開始したアジア奨学生受入事業の第１回目の奨学生として来岡した、イメルダ・ウルビズトンドさん（フィリピン）とコー・フィーキャンさん（シンガポール）が１年間の留学を終え昨年９月25日に帰国されました。

ウルビズトンドさんは、ノートルダム清心女子大学家政学部児童学科で児童心理学について、コーさんは岡山大学大学院で教育心理学について研究をされました。

また、お二人は様々な国際交流活動に積極的に参加し、市民の方々との身近な交流を深めました。

帰国後は、母国の発展に貢献をされております。

『バスツアー&ホームステイ』に参加（'94. 11）

日本文化紹介講座で『生け花』を体験（'95. 4）

第２回アジア奨学生来岡

第２回アジア奨学生が昨年10月に１名、11月に２名来岡されました。３名は１年間岡山に滞在し、それぞれの研究分野に熱心に取り組んでいます。

氏　　名　Adrin Tohari（アドリン・トハリ）
出 身 地　インドネシア共和国
留 学 先　岡山大学大学院工学研究科
研究分野　土木工学（地滑り現象について）

私にとって岡山市での生活はとても良い経験です。岡山市の第一印象は、平和できれいな町で周辺には緑の豊富な山や庭が多く、特に後楽園はこの町の美しさのシンボルだと感じました。

外国人は日本の文化、お城や神社や旧家に興味をもつと思いますが、これらは現代化が進む中でもなお残存しています。また、私は和食が好きで『すきやき』が大好物です。

岡山市は賑やかな町ですが、交通渋滞は少なくてそんなに混んでいるというような気がしません。見る物、遊ぶ所もたくさんありますが、物価が高くてお金がかかります。市民の方々は真面目で親しくしてくれます。私の回りにも、特に岡山大学にたくさんの友達がいます。

岡山市の雰囲気は勉強に適していると思います。遅くまで研究室にいて一人で帰るときも安全なので心配がいりません。岡山市での生活はとても楽しいです。

写真左からアドリン・トハリさん、
バツク・バタボールドさん、
ガルシンハさん

氏　　名　Garusinghe Dewage Saman Yashintha Kumara
（ガルシンハ デワーゲ サマン ヤシンサ クマーラ）
出 身 地　スリランカ民主社会主義共和国
留 学 先　岡山理科大学工学部機械工学科
研究分野　流体力学

岡山市はとてもきれいで静かな町だと思います。ここに来てよかったです。市民の皆さんは親切で、友達になりやすい方々です。

岡山市では外国人のための施設がだんだん増えてきているという気がします。例えば無料日本語教室、友好交流サロン、国際交流ヴィラなどがあって、私はすぐ日本の生活に慣れました。

私は工学について研究していますが、一生懸命勉強してこの知識をスリランカに帰っても役立てたいと思っています。岡山市役所、岡山市国際交流協議会の皆様のお陰で私は岡山に来ることができ、市民の皆さんにお世話になり、大変ありがたく思っています。

氏　　名　Batsukuh Batbold（バツク・バタボールド）
出 身 地　モンゴル
留 学 先　岡山大学医学部
研究分野　心臓病

私は11月に岡山に来ました。初めての日本訪問です。岡山大学医学部第一内科研究室で心臓の研究をしています。研究以外に日本語と日本文化の勉強もしています。日本の第一印象は皆さんとても親切で、よくお世話をしてくれます。教育システムはよくできているし、社会的に発展していると思います。私は、来る前に日本には高いビルがたくさんあって、人も多くて、車もたくさんあると想像していました。実際に想像と同じですが、日本の社会はよく整っているという気がします。また、日本は地理的に恵まれていると思います。緑の山、豊富な平原、四季、豊富な植林があります。モンゴルは、日本と違って陸で囲まれている広い国です。1990年に平和な民主主義革命により経済的に開け、観光客も来ることができるようになりました。日本にいる間に色々なことを経験してみたいと思っています。研究の面で研究室の設備は整っていて、医療レベルも大変高いので、私にとってとてもいい機会です。